

連結業績ハイライト

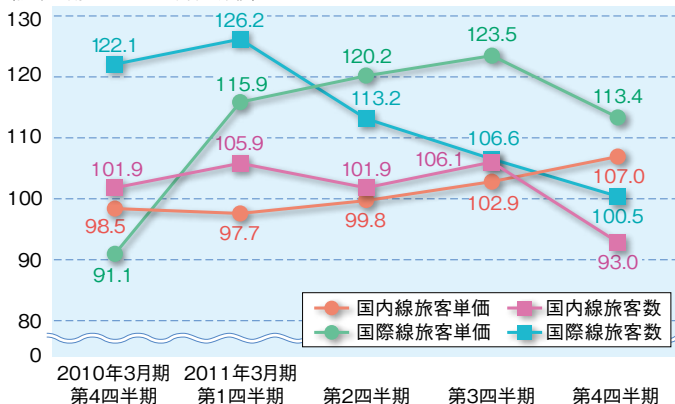
2010年4月1日～2011年3月31日

期初に設定した収支改善策を計画通り遂行し、前期より1,220億円の営業増益を達成

- 需要の回復が進む中、期末に震災の影響を受けましたが、成田・羽田の拡張に伴う増便効果もあり、営業収入は前期より1,293億円増収の13,576億円となりました。
- 営業費用は860億円の費用削減策を計画通り実施し、前期より72億円増にとどめ、12,898億円となりました。
- 以上の結果、営業利益は678億円、経常利益は370億円、当期純利益は233億円となり、最優先の課題であった黒字化、復配(2円)を達成することができました。

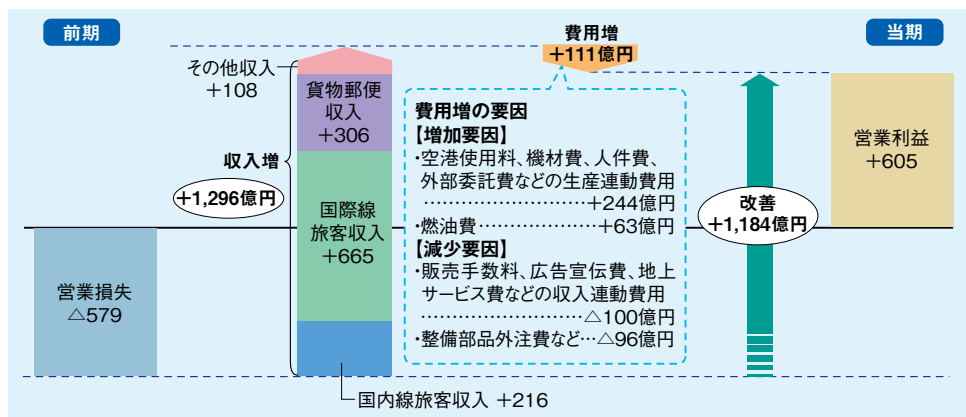
旅客数と単価の四半期推移(前年同期比)

(前年同期を100とした場合の数値)



航空運送事業の営業損益改善の要因(前期との比較)

(単位: 億円)



※金額は表示単位未満の端数を切り捨てています。

経営成績

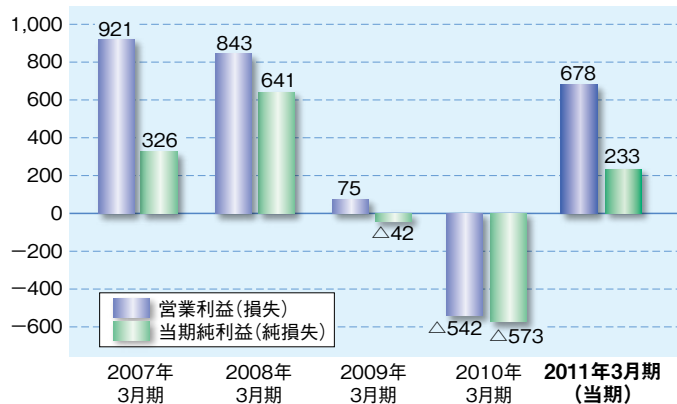
(単位: 億円)

	前期	当期	増減	前期比(%)
営業収入	12,283	13,576	1,293	110.5
営業費用	12,826	12,898	72	100.6
営業利益又は損失(△)	△542	678	1,220	-
営業外損益	△320	△307	12	-
経常利益又は損失(△)	△863	370	1,233	-
特別損益	△92	△19	73	-
当期純利益又は純損失(△)	△573	233	806	-
EBITDA*	595	1,862	1,266	312.7

※EBITDA=営業利益+減価償却費

営業利益(損失)と当期純利益(純損失)

(単位: 億円)



- **営業収入 1,296億円の大増収**
(国内線旅客)需要と単価が堅調に推移
(国際線旅客)ビジネス需要の回復に加え、成田・羽田両空港からの増便も寄与
(貨物)国際線の輸送重量増と単価アップが寄与
- **営業費用 111億円増に抑制**
コスト構造改革の着実な実行で、費用増を抑制
- **営業利益 605億円を計上**
営業利益は1,184億円の改善